

目次

会長あいさつ・・・・・・・・・・1
第33回大会をお受けするにあたって・・・・・・・・・・2
大会への参加方法・・・・・・・・・・3
2021年秋季大会プログラム・・・・4

第43回総会報告・・・・・・・・・・7
理事会報告・・・・・・・・・・9
2021年(第33回)春季大会報告・10
事務局からのお知らせ・・・・11

■会長あいさつ

日中社会学会第33回大会開催にあたって

会長 南裕子(一橋大学)

2021年の大会もオンラインでの開催となりました。今回、大会実行委員長をお引き受けくださった関西学院大学の陳立行先生、そして大会開催にむけてご尽力いただいております理事の皆様には心より御礼申し上げます。

今回は、自由報告の申し込み期間となったもののエントリー数が非常に少ない状態が続きました。やはり、**covid-19**の感染拡大により中国現地調査が困難になっていることが、会員の皆様に影響しているのかと憂慮しておりました。最終的には、20名の方々にエントリーいただきました。これは、特に、院生の方々が、博士論文に向けて、この厳しい状況下でも何とか研究を進めるべく工夫をされていることの表れのように思います。

私自身も最後に訪中したのが2020年1月です。何やら中国が遠くなってゆく感覚が強まっています。そんな時、中国での恩師である故・陸学芸先生と

ある村についてのお話を思い出します。陸先生が北京大学の学生時代の1958年に、すべての授業が当時の大興県農村での労働となり、8か月ほどその村で過ごしたそうです。先生は、その後も折に触れその村に出掛け、村びととのつながりを保ち続けました。特に、研究者になられた後は、論文執筆の際に、また、研究者や政策担当者の中で、農業・農村政策や農村問題が議論されている時には、必ずその村に出かけて、村の人々が実際に何を考え、村やその農業がどうなっているのかをご自身で確認し、そこで得た感覚を大切に、ご自身の議論を展開されたと仰っていました。ここまで深いものでは到底ありませんが、それでも私自身、中国研究者として持っていたこうした現地感覚が、この間に薄れてしまうことに危惧を抱いています。現場から遠くなったことを、むしろ、それを時間と空間上で相対化するための時期として有効に使いたいと思いつつ、それをどのように形にするのか模索の中にいます。どうもニューズレター巻頭の会長挨拶らしからぬ文章になってしまいました。

さて、今回の大会も報告募集にあた

り、中日社会学会（中国社会学会中日社会学専門委員会）の会員の皆様へもご案内をいたしました。2名の方からご応募いただきました。また、会長の羅紅光先生（中国社会科学院）から開会式でご挨拶をいただけるほか、副会長の阮云星先生（浙江大学教授）からは、特別講演「東アジアにおけるサイボーク人類学の試み：中日学界の研究を中心に」をお願いできることとなりました。阮先生は、現在、大阪国立民族学博物館の外国人研究員として日本に滞在されています。今回のご講演では、新しい研究領域としてのサイボーク人類学を、我々にご紹介いただけることになるかと思えます。とても刺激的な時間になるものと期待しています。

また、開催校企画のシンポジウムは、日・中・韓の東アジアの女性の社会参加の問題がテーマとなっています。これまで本学会では、韓国を含めた議論はあまり見られませんでしたので、こちらは大変楽しみなところです。

今年度の大会も、多くの会員の皆様にご参加いただき、活発な議論が交わされることを願っております。会員の皆さまにおかれましては、引き続きどうぞご自愛の上、11月6日には、ZOOMの画面上にはなりますが、お元気でお集まりいただければ幸いです。

■第33回大会をお受けするにあたって

大会実行委員長 陳立行

11月6日（土）、オンラインにて第

33回大会が開催されます。昨年、コロナ感染防止のため、初めてオンラインにて大会が開催されました。約二年間近く、皆様におかれては、さまざまな行動制限の中、疲労感を感じているところかと思えます。もし、コロナがある程度終息すれば、今大会は関西学院大学で対面形式、或いは、ハイブリッド形式で開催予定でした。しかしながら、8月の東京と関西地域のコロナ感染の拡大に伴う緊急宣言が発動されてから、対面的に開催することが困難になり、ハイブリッド形式か、オンライン形式かしか選択肢がない状況になってしまいました。

昨年オンラインで大会を開催した池本先生から、3会場で同時に開催する際、参加者の通信のトラブル処理の大変さを伺いました。関西学院大学のPCサポートセンターは土曜日が休みのため、ハイブリッド形式で4つの会場で同時開催することになれば、何かのトラブルが出たとき、協力してくれる学生たちでは処理できないと思い、オンライン形式で実施することを決めました。大会担当理事の池本先生から昨年の学生チームを率いて、オンラインの実施を全面的にサポートしてくれることに大変心強く感じます。

この大会は7つの自由発表のセッションを設けました。その中、英語のセッションと科研費研究成果報告のセッションを企画しました。また、「東アジアにおける女性の社会参加について」というシンポジウムも企画しました。2018年世界経済フォーラムの149か国の「gender-gap-index」のランキングでは、中国が103位、日本が110位、

韓国が 115 位となっています。このシンポジウムでは日本、韓国、中国における女性の社会参加と社会排除の実態を踏まえ、伝統文化と国民国家の枠組みの視点から東アジア女性の社会参加について討論を展開します。

授業、会議、学会等すべての社会生活をオンラインで行うことに大きなストレスが溜まっていると思います。この非常時期の中ではありますが、オンライン懇談会を設定しました。できる限り、研究交流の機会として、気楽にご参加をお願いします。

■大会への参加方法

大会オンライン担当理事 池本淳一

今大会はすべて ZOOM のミーティンググループでの開催となります。

・自由報告は 4 会場で行って開催。ZOOM の招待状 (zoom のミーティンググループのアドレスが記載されたものです) も会場 A、会場 B、会場 C、会場 D それぞれ別々に発行されます。当日はご希望の会場の招待状から、各会場にオンラインしてください。

・開会式、特別講演、シンポジウム、懇親会などの全体行事は、すべて会場 A にておこなわれます。

・ZOOM の招待状は、大会前日に学会のメーリングリストにて配布いたします。またセキュリティ保持のため、招待状を学会員以外の方に通知するのは

禁止させていただきます。

・学会員以外の方で本大会に参加希望の方は、中村圭先生 (事務局長) までメールをお送りください。個別対応させていただきます。

メール送信先：中村 圭

kayz★mbj.nifty.com (★を@に変更)

・学会員あるいは許可を得た非学会員の本人確認のため、ZOOM では、本名での参加をお願いいたします。(名前は画面下のアイコン「参加者」をクリックし、画面右に表示される参加者の一覧の中の自分にカーソルを合わせて「詳細」→「名前の変更」で変更してください。)

・本大会は自由報告は発表 20 分、質疑応答 10 分の合計 30 分、原則的に延長は行われず、発表・質疑応答の途中であっても 30 分で終了させていただきます。機材トラブル、通信状況によって発表がスムーズにいかない場合も想定されますので、発表者の方々には十分な ZOOM の操作法の練習及び余裕をもった発表をお願いいたします。

日中社会学会 2021 年秋季（第 33 回）大会プログラム

日時：2021 年 11 月 6 日（土） 開催校：関西学院大学（オンライン開催）

大会開催校 責任者：陳立行理事（関西学院大学）

大会担当理事：池本淳一理事（会津大学）、穂山新理事（法政大学）、劉楠理事（山梨学院大学）

12:20～12:30 開会式 司会:中村圭（島根県立大学） **A 会場**
会長挨拶 南裕子（一橋大学／日中社会学会会長）
来賓挨拶 羅紅光（中国社会科学院、未来塾塾長／中日社会学会会長）

12:30～15:15 自由報告

(1) セッション A（会場：**A 会場**／時間：12：30～13：50）

司会：陸麗君（福岡県立大学）

1. 李丹（東京農工大学大学院）「新世代女性農民工の就業安定性の影響要因に関する研究—性別と世代間の二重格差の視点から」
2. 李ソウカン（早稲田大学）「社会移動の日中比較」
3. 譚天儀（北海道大学大学院）「見えない都市中心部のウェイスト・ピッカー—山東省東営市東営区を事例に」

(2) セッション B（会場：**B 会場**／時間：12：30～13：50）

司会：江口伸吾（南山大学）

1. 李潤楚（お茶の水女子大学大学院）「中国のネットユーザーの政治的イデオロギーに対する RCA 分析」
2. 羅燦（早稲田大学大学院）「中国歴史教科書における道徳と時間性」
3. 周筱（筑波大学）「中国のフェミニストによる「幼女」の権利付与と性権利の抹消—「幼女買春罪」の存廃問題をめぐる法学者とフェミニストの攻防」

(3) セッションC (会場：C会場／時間：12：30～13：50)

司会：鍾家新（明治大学）

1. 羅欣寧（北海道大学大学院）「中国の出生率回復は可能なのか——出産政策の転換からみた中国の少子高齢化」
2. 齋藤あおい（一橋大学大学院）「「坐月子」の商業サービス化とその意味——1990年代-2000年代の上海を事例に」
3. 李馨怡（名古屋大学大学院）「「自梳女」の結婚拒否——その意識と手段」

(4) セッションD (会場：D会場／時間：12：30～13：50)（科研費セクション）

司会：李明伍（和洋女子大学）

1. 白素香（東北農業大学）「小規模家族経営における農業機械化に伴う“三項補貼”の経営効果—小麦主産地2014年と2021年」
2. 閻美芳（早稲田大学）「一人っ子政策が農村コミュニティに与えた社会的影響に関する検証—山東省淄博市X村でのアンケート調査から」
3. 喻小雨（京都大学大学院）英語報告「Will children of Chinese Peasants inherit farming operations? A survey in rural Anhui Province」

(5) セッションE (会場：A会場／時間：13：55～15：15)

司会：滝田豪（京都産業大学）

1. 翁康健（北海道大学大学院）「台湾における宗教的寄付行為の規定要因に関する考察—「台湾社会変遷基本調査」のデータを用いて」
2. 王暉（浙江大学）「浙江中部地方における儒学伝承と特別な祠堂空間について」
3. シャザディグリ シャウティ（青山学院大学）「中国新疆ウイグル自治区におけるサードエイジャーの自己効力感に関する調査研究」

(6) セッションF (会場：B会場／時間：13：55～15：15)

司会：合田美穂（香港中文大学）

1. 林萍萍（神戸大学）「孤独感の規定要因に関する日中比較—ISSP2017のデータを用いた分析」
2. 高欣（大阪大学大学院）「中国の被災地における観光活動が教育に果たす役割に関する研究」
3. 姜娜（魯東大学）「日本酒酒造一技を伝承する場の構築」

(7) **セッションG** (会場：**C会場**／時間：13：55～15：15) (英語セッション)
司会：伍嘉誠 (北海道大学)

1. XIE JINGXUE (東京農工大学大学院) 「Research on the Establishment of Evaluation System for Elderly Care Facilities in China's Major Cities」
2. 左雯敏 (早稲田大学) 「Preventing Social Fracture: Case Study on Poverty Alleviation Industry in China's Village」
3. KONG Qingtun (東京農工大学大学院) 「Implications of the Development Situation of the 6th Industrialization for the Integration of the Three Industries in China」

15:20～16:00 (A会場) 特別講演

司会:陳立行 (関西学院大学)

講演者：阮雲星 (浙江大学・中日社会学会 副会長)

題名：「東アジアにおけるサイポーク人類学の試み
：中日学界の研究を中心に」

16:00～17:30 (A会場) 開催校企画 シンポジウム

テーマ：「東アジアの近代化における女性の社会参加」

司会：坂部晶子 (名古屋大学)

登壇者：

三成美穂 (奈良女子大学) 「戦後日本における女性の社会参加と法
—ジェンダー平等停滞の背景を考える」

横田伸子 (関西学院大学)

「韓国のセマウル運動による農村女性の開発への動員」

陳立行 (関西学院大学)

「国民国家における女性の社会参加に対する日中比較」

17:40～ (A会場) 閉会の辞

18:00～20:00 (A会場) オンライン懇親会

(挨拶後、トークルームへご案内予定、20:00 終了)

■ 第 43 回総会報告

開催日：2021年6月26日（土）

開催場所：オンライン開催

松谷実のり会員（追手門学院大学）が議長に選出され、議事に入った。

第 1 号議案 2020 年度事業報告

以下の各項目について、中村圭事務局長および各担当理事より報告がなされた。

1. 総会の開催 2020.6.28（オンライン開催）
2. 研究大会の開催 2020.10.21（会津大学 オンライン開催）
3. 機関誌『日中社会学研究』第 28 号編集発行（2021.3、300 部）、第 29 号編集
4. 機関誌『21 世紀東アジア社会学』第 11 号 公募・編集
5. 「ニューズレター」編集・発行 83 号（2020.8）、84 号（2020.10）
6. 理事会開催 1 回 2020.5.23 Web 開催（+ネットによる持ち回り理事会 15 回）
7. ホームページ、メーリングリストの運営
8. 会員概況 入会 23 名（一般 5 人、院生 18 人）、退会 9 名
9. 現会員 251 名 一般 159 名（うち顧問 2 名）、学生 92 名 *2021 年 5 月末
10. 事務局所在地の変更（一橋大学 → 島根県立大学）

第 2 号議案 2020 年度会計報告

I. 一般会計報告

収入の部

費目	予算額	決算額	増減額
前年度繰越金	1,508,240	1,487,652	▲ 20,588
年会費	800,000	790,000	▲ 10,000
機関誌販売	6,000	3,000	▲ 3,000
雑収入	100	58,412	58,312
合計	2,314,340	2,339,064	24,724

支出の部

費目	予算額	決算額	差額
『日中社会学研究』制作費	450,000	352,000	98,000
事業費(学会誌電子化)	150,000	0	150,000
事業費(その他)	300,000	0	300,000
事務費	20,000	1,222	18,778
通信費	100,000	71,237	28,763
会議費	20,000	0	20,000
事務局補助謝金	30,000	30,000	0
大会補助	100,000	100,000	0
年会費	10,000	10,000	0
予備費	1,134,340	0	1,134,340
合計	2,314,340	564,459	1,749,881

II. 大会特別会計報告

日時 2020年11月21日
会場 ZOOM開催
大会会計担当者 池本淳一

収入総額	100,000	
支出総額	41,600	
残額	58,400	学会会計に返金

収入の部

大会補助	100,000	学会一般会計より
計	100,000	

支出の部

zoomアカウント代	6,600	アカウント2,200×3アカウント
学生バイト代	35,000	時給1000円、3名×9時間、1名×8時間、合計35時間
計	41,600	

会計担当の聶海松理事より報告がなされ、賛成多数にて承認された。

第 3 号議案 2020 年度監査報告

監査結果について松木孝文理事より報告がなされ、賛成多数にて承認された。

第4号議案 2021年度事業計画案

以下の各項目について、中村圭事務局長および各担当理事より報告がなされた。

1. 第33回 春季・秋季研究大会：2021年6月26日(春季・オンライン開催)、11月6日(秋季・陳立行大会委員長・関西学院大学)
2. 第34回研究大会：2022年6月4日～5日(予定)、開催準備
3. 『日中社会学研究』：第29号編集発行、第30号編集
4. 学会誌電子化公開『日中社会学研究』26、27号(中国・アジア研究論文データベース)
5. 『21世紀東アジア社会学』：第11号発行、第12号編集
6. ホームページリニューアル・メーリングリストの運営・「ニューズレター」プラットフォーム機能の充実
7. 会員名簿の作成
8. 理事会開催：2回
9. 他組織・海外研究者とのネットワーク構築、連携
・中日社会学学会専門委員会、社会学系コンソーシアムなど
10. 日中社会学会 創設期史料のデータベース化

(備考)

- ・日中社会学研究制作費：29号制作費
- ・事業費(学会誌電子化)：21世紀東アジア社会学 J-stage 搭載作業(11号分)、日中社会学研究 26号、27号(J-stage) 搭載作業
- ・事業費(過去史料のデータベース化)：故若林敬子先生の史料
- ・年会費：社会学系コンソーシアム会費

第6号議案 次年度大会・総会の開催地・開催校について

北海商科大学・北海道大学合同開催
(大会実行委員長・佐藤千歳会員)
(会場：北海商科大学 予定)

第5号議案 2021年度予算案

中村圭事務局長から報告がなされ、賛成多数で承認された。

以上、賛成多数にて承認された。

■ 理事会報告

日時：2021年5月23日（日）

場所：WEB開催

出席：穂山新、浅野慎一、池本淳一、石井健一、江口伸吾、伍嘉誠、佐藤千歳、陳立行、唐燕霞、中村圭、聶海松、西原和久、南裕子、李妍焱、李明伍、劉楠

（1）南裕子会長挨拶

昨年度コロナ禍における困難な状況下での活動への謝意。オンライン大会開催、学会誌の充実。

本年度抱負—HPリニューアル、若手研究会の開催、学会創立期史料データベース化。

（2）新入会委員審議

1名承認。

（3）第41回総会＋第33回春季学術企画について

6月26日（土）オンライン（Zoom）開催

- ・総会議案
- ・学術企画1 基調講演、松戸庸子先生（南山大学名誉教授）
- ・学術企画2 次号『日中社会学研究』コラボ企画
- ・オンライン懇親会

（4）『日中社会学研究』にかんして

- ・第28号 公刊報告 14本の査読
奈倉京子副編集長体制、書評の充実、中村則弘先生追悼、コロナ特集
- ・第29号進捗報告：17本の査読
- ・次号：春季大会とのコラボ特集論文企画（李明伍理事 担当）
- ・投稿者が増加しており、査読体制を

組むのが困難。

（5）『日中社会学研究』特集連携学術企画について

- ・企画「高度情報化と社会統制～中国の場合～」について、他学会へ広く公募
- ・3名の応募があり、6月26日の春季大会で報告。

（6）2021年度第33回秋季研究大会開催について

2021年11月6日、開催校：関西学院大学

- ・関西学院大学側は対面開催を了承、コロナ禍の状況を見極めつつ、対面を前提にしてハイブリッド型で進める。

（7）2022年度第34回大会開催について

北海商科大学・北海道大学共同開催

- ・会場は北海商科大学。大学側は対面開催で了承。
- ・大会実行委員長は佐藤千歳会員（北海商科大学）、スタッフ、開催校学術企画等運営は、櫻井義秀会員、伍嘉誠会員（ともに北海道大学）とともに進めていく。
- ・日程は、例年通り6月第1週目の週末6月4、5日の予定。

（8）『21世紀東アジア社会学』について

- ・第11号進捗状況報告：7月中旬以降に発行予定
- ・昨年8月に、学会HPにて下記「公募特集」の原稿募集
特集①「ポストコロナ時代の東アジア」

特集②「東アジアの法と文化」

- ① が 6 本、②が公募 4 本、依頼 2 本
- ・特集③東アジア社会の連携を考える—その過去・現在・未来（西原和久理事企画） 6 本
- ・現在査読中。

（9）ニューズレターについて

- ・2020年8月第83号発行、2020年10月第84号（大会直前号）発行。
- ・85号発行は、総会開催後、秋季大会前に発行予定。

（10）学会誌の Web 公開について

- ・日中社会学研究 26 号、27 号
- 中国・アジア研究論文データベースへの公開は 6 月中に予定。

（11）2020 年度会計／2021 年度予算について

2021 年度予算策定に関連して

- ・費目変更：事務局補助謝金→庶務補助謝金

本務校の仕事も多忙な先生も多く、事務局、会計、IT 担当、ニューズレター担当理事等で広く謝金として使用できるように変更

※使用する場合には残高を確認の上で使用するようルールを作成。

- ・故、若林敬子先生の残された学会創立時の史料をデータベース化の予算を 10 万円、計上。
- ・『日中社会学研究』発行部数を 300 部から 250 部へ変更（発送委託費は通信費から計上）。

- ・会費徴収状況

本年度は請求書を郵送せずにメールで滞納年数別に請求。

- ・海外在住会員の徴収方法について
例年 1～2 人なので、現在は聶海松会計担当理事が個別に対応。

（12）ホームページ リニューアル事業について

- ・本年度の予算は 40 万円確保。引き続き情報を集めて検討していく。

（13）事務局所在地の移転について

一橋大学から島根県立大学へ移転

■2021 年（第 33 回）春季大会報告

2021 年度は大会開催を秋に予定しており（第 33 回秋季大会）、それに加えて春の研究大会（第 33 回春季大会）を、以下の日程とプログラムで開催した。

日時：2021 年 6 月 26 日（土）

場所：WEB 開催

【プログラム】

開会の辞・会長挨拶 13:00～13:05

南裕子会長（一橋大学）

研究報告 13:05～14:20

〈基調講演〉

松戸庸子先生（南山大学名誉教授）

「狼牙山五壮士」名誉毀損問題のインプリケーション」

司会：江口伸吾先生（南山大学）

研究報告 14:30～16:50

テーマ：「高度情報化と社会統制～中国の場合～」

司会：李明伍先生（和洋女子大学）

・報告 1 高橋孝治会員（日中社会学会会員）「中国・インターネット安全法における「ネット空間の主権」とその取締対象に関する考察」

・報告 2 劉曼怡会員（一橋大学大学院）「「ファン女子」は愛国：中国のネット空間におけるアイドルファンの愛国活動」

・報告 3 華金玲会員（慶應義塾大学）「「社区」ベースの「中国方式」新型コロナ感染予防対策体制と携帯電話利用—中国大連市金普新区のロックダウンに基づいた事例分析」

総会 16:55~17:40

第 42 回日中社会学会 総会

2020 年度事業報告・会計・監査報告、
2021 年度事業計画・予算案

オンライン懇親会 18:00~20:00

■事務局からのお知らせ

■入退会のお知らせ

2020 年度入会 23 名（一般 5 名、院生 18 名）、退会 9 名。

2021 年度（9 月末まで）入会 20 名（一般 5 名、院生 15 名）。

■会員異動のお知らせ

江口伸吾 島根県立大学→南山大学
中村圭 成城大学経済研究所→島根県立大学

■事務局からのお願い

□メルマガ届いていますか？

本学会では、google グループによるメーリングリストによる広報を行っています。事務局へご登録いただいたメールアドレスへ、不定期に「日中社会学会メールマガジン」が配信されます。メールマガジンが届いていない方や、未登録の方、また、メールアドレスに変更があった場合は、事務局までお知らせください。

□情報をお寄せください

会員の皆様で、出版物のご案内や研究会・シンポジウムの開催のご案内などがございましたら、事務局まで情報をお寄せください。

□会費納入のお願い

学会活動は皆さまからの会費で支えられております。2020 年度までの会費納入をお願いいたします。一般会員 6000 円、学生会員 4000 円です。

日中社会学会・郵便口座

口座記号番号：00140-9-161801

加入者名：日中社会学会

*インターネットバンキング等、銀行からのお振込みの場合は、下記になります。

店名：〇一九店 店番：019

口座番号：0161801

*海外からご送金の際は、事務局までお問い合わせください。

□異動、住所変更の際はご一報を!

異動、住所変更のあった方は、新しいご所属、メールアドレス、郵便物送付先等の情報を事務局までご連絡くださいますようお願いいたします。

日中社会学会ニュースレター No.85

編 集 :坂部晶子(名古屋大学)

発 行 : 日中社会学会事務局
〒697-0016
島根県浜田市野原町 2433-2
島根県立大学 中村圭研究室

info@japan-china-sociology.org

○日中社会学会・公式 HP
<http://www.japan-china-sociology.org/>

発行日 : 2021 年 10 月